

所 報

I. 教育研究所

1. 異動と構成人員 (1998年4月1日～1999年3月31日)

昨年度に引き続き、千葉果弘教授が本研究所長を務める。また、1998年6月31日をもってベンジャミンC. デューク先生(教育学)が、7月31日をもってヴァージニア・ロカストロ先生(英語教育)が退職され、9月1日より李麻芝(RHEE, MA-JI)先生(教育学)を迎えた。

本研究所は現在、所員19名、研究員33名、助手3名により構成される。

(1) 所員 (専門分野)

千葉 果弘	(教授、教育学)
立川 明	(教授、教育学)
林 昭道	(準教授、教育学)
町田 健一	(準教授、教育学)
李 麻芝	(準教授、教育学)
小谷 英文	(教授、心理学)
栗山 容子	(教授、心理学)
磯崎三喜年	(準教授、心理学)
D. W. ラッカム	(準教授、心理学)
笹尾 敏明	(助教授、心理学)
向井 敦子	(講師、心理学)
阿久津喜弘	(教授、教育学・コミュニケーション)
	1998年4月1日より大学院教授
石本 菅生	(教授、教育学・コミュニケーション)
中野 照海	(教授、教育学・コミュニケーション)
	1997年4月1日より大学院教授
王 淑英	(準教授、教育学・コミュニケーション)
J. C. マーハ	(教授、英語教育)
P. B. マッキヤグ	(教授、英語教育)

- R. H. スラッシャー (教授、英語教育)
 T. J. ライネイ (準教授、英語教育)

(2) 研究員 I -Research Fellows

- 1) 深谷 潤 勤務先：平安女学院短期大学保育科 助教授
 研究課題：キリスト教教育の哲学的考察
 保証人：千葉杲弘教授
- 2) 石井 由理 勤務先：山口大学教育学部 講師
 研究課題：学校カリキュラムにおける国際理解
 保証人：千葉杲弘教授
- 3) 影山 礼子 勤務先：国際武道大学教養教育部 教授
 研究課題：キリスト教女子教育思想史
 保証人：千葉杲弘教授
- 4) 金 泰勲 勤務先：清州基督教青年会付設青少年文化研究所
 研究課題：日・韓における国際理解教育に関する比較研究
 保証人：千葉杲弘教授
- 5) 鬼頭 當子 勤務先：MK図書館研究所
 研究課題：1. 図書館管理の現況調査
 2. 図書館に於ける省エネルギーと省力化の研究
 保証人：千葉杲弘教授
- 6) 小林 和恵 勤務先：国際協力総合研修所調査研究課 研究員
 研究課題：教育分野の国際協力、識字教育協力
 保証人：千葉杲弘教授
- 7) 武藤小枝里 勤務先：JICA国際協力総合研修所
 研究課題：途上国教育協力—アフリカ—
 保証人：千葉杲弘教授
- 8) 永田 佳之 勤務先：国立教育研究所 研究員
 研究課題：国際教育協力、国際理解教育／開発教育、発展途
 上国における教育改革
 保証人：千葉杲弘教授
- 9) 渡部 淳 勤務先：国際基督教大学高等学校 社会科教諭
 研究課題：1. 日本における国際理解教育の展開と
 その教育史的意義
 2. 社会科教育における教育方法の国際比較

- 保証人：千葉杲弘教授
- 10) 吉岡 良昌 勤務先：東洋英和女学院大学人間科学部 助教授
研究課題：キリスト教教育（宗教心と人間形成）
保証人：立川明教授
- 11) 雨宮 基博 勤務先：大月市立下和田小学校 教諭
研究課題：学級集団への集団精神療法の適用
保証人：小谷英文教授
- 12) 権藤 桂子 勤務先：立教女学院短期大学 専任講師
研究課題：乳幼児言語発達
保証人：向井敦子講師
- 13) 川津 茂生 勤務先：国際武道大学 助教授
研究課題：On the Nature of the Psychological Reality of
Perceptual and Cognitive Processes
保証人：栗山容子教授
- 14) 大井 直子 勤務先：国際基督教大学教育心理学 副手
研究課題：1. 価値観の縦断的研究
2. 青年期の自己概念
保証人：栗山容子教授
- 15) 苔米地憲昭 勤務先：国際基督教大学カウンセリングセンター
研究課題：学生相談活動における心理教育プログラムの実践
について
保証人：立川明教授
- 16) 来嶋 洋美 勤務先：国際交流基金日本語国際センター 専任講師
研究課題：プログラム評価
保証人：石本菅生教授
- 17) 松田 憲 勤務先：亜細亜大学教養部 専任講師
研究課題：第二言語読解過程研究、国際遠隔教育、留学
前後における異文化理解の変化についての研究
保証人：ランドルフ・H. スラッシャー教授
- 18) 中村 優治 勤務先：東京経済大学経営学部 教授
研究課題：Language Testing (Assessment of Oral Proficiency)
English Linguistics
保証人：ランドルフ・H. スラッシャー教授

(3) 研究員 II -Research Associates

- 1) 上別府隆男 勤務先：Ph. D. Candidate, College of Education,
University of Maryland, College Park
研究課題：Education Policy Analysis, Education Aid
Decision-making
保証人：千葉杲弘教授
- 2) 小島 文英 最終学歴：M. A. (ジョージワシントン大学)
勤務先：国際協力事業団技術協力専門家
研究課題：教育と開発
保証人：千葉杲弘教授
- 3) 朴 貞姫 勤務先：東北朝鮮族教材開発研究センター
研究課題：日本語教育
保証人：飛田良文教授
- 4) 佐藤めぐみ 最終学歴：国際基督教大学教育学修士 (教育哲学)
勤務先：日本国際交流振興会職員
研究課題：国際理解教育の浸透と学校の取組み
保証人：千葉杲弘教授
- 5) 原 和子 最終学歴：お茶の水大学理学部物理化学科卒業
研究課題：異文化体験のライフコース分析
(帰国子女の追跡調査)
保証人：栗山容子教授
- 6) 服部 純子 最終学歴：南カリフォルニア大学院Ph. D.
研究課題：文化とパーソナリティ
保証人：栗山容子教授
- 7) 井上 純子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士 (教育心理学)
勤務先：文部省大学入試センター研究開発部進学適性研究
部門 非常勤職員
研究課題：乳幼児期における言語発達、発達初期の父母子
相互作用
保証人：栗山容子教授
- 8) 石渡 実絵 最終学歴：国際基督教大学教育学修士 (教育心理学)
研究課題：向社会的行動の発達
保証人：栗山容子教授
- 9) 前田 洋士 最終学歴：慶應義塾大学教育学修士 (教育心理学)

勤務先：東京国際大学経済学部非常勤講師、国際基督教大
学大学院教育学研究科博士後期課程在学中

研究課題：認知発達の個人差についての実験的研究

保証人：栗山容子教授

- 10) マタノ I. 純子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
勤務先：NY州公立中学校・高校スクールカウンセラー
研究課題：Cross-cultural Counseling
保証人：千葉杲弘教授

- 11) 萩原 美文 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
勤務先：府中市教育相談室
研究課題：発達心理学
保証人：栗山容子教授

- 12) 斉藤 哲 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
勤務先：ピジョン株式会社常総研究所研究開発部
研究課題：乳幼児の発達研究（コミュニケーション・人間
関係の発達、言語発達）
保証人：向井敦子講師

- 13) 杉山恵理子 最終学歴：国際基督教大学教育学博士（教育心理学）
勤務先：国際基督教大学カウンセリングセンター
研究課題：集団精神療法の治療要因と技法
保証人：小谷英文教授

- 14) 三河内彰子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（視聴覚教育）
研究課題：マルチメディアを用いた学習に関する研究
保証人：中野照海教授

- 15) 山王丸浩子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（視聴覚教育）
勤務先：国際協力事業団沖縄国際センター
研究課題：ハイパーメディア・マルチメディアの教育利用
保証人：中野照海教授

(4) 助手

- 1) 山口 麻矢 国際基督教大学教育学修士教育心理学（1998年1月～）
- 2) 大川多美子 国際基督教大学教育学修士英語教育（1998年4月～）
- 3) 宇田川洋子 国際基督教大学教育学修士英語教育（1998年10月～）

2. 活動報告 (1997年9月1日～1998年8月31日)

(1) 研究活動

1998年6月30日～7月11日 インドネシア識字教育スタディーツアー

(2) 講演会

1997年10月8日: “New Government Policy and Reform in Higher Education in the UK” —with Special Reference to International Cooperation—

Dr. Tom Barron

Director, International Office, University of Edinburgh

Mr. Peter Craggs

Director, International Office, University College London

1997年11月14日: “Methods of Data Collection and Analysis in Cross-Cultural Pragmatics”

Masako K. Hiraga

Associate Professor of English University of the Air

1997年12月8日: “Meeting with UNESCO Recruitment Mission”

広瀬ユネスコ人事局長

Selmi人材開発部長

1997年12月9日: “The Humanities in Technological Society”

(工業技術社会の中の人文科学)

Prof. Yuhui Park

Pohang University of Science and Technology

1998年2月26日: 「UNICEFの教育援助に対する視点」

モンズール・アーメット氏 (UNICEF駐日代表)

1998年6月9日: 「人口教育促進のためのメディア・ストラテジー」

—トルコ共和国での事例—

中野照海教授 (視聴覚教育研究室)

(3) 教養教育カリキュラム研究開発

一般教育主任とFDの共同研究が進行中

Ⅱ. 所員・研究員・98年度博士号取得者活動報告 (1997年9月～1998年8月)

〈教育哲学研究室〉

千葉 泉弘 教授

I. 研究活動

国際理解教育

識字教育、成人教育、生涯教育、Education for All,

アジア・アフリカの教育

開発と教育、教育分野の国際交流・援助、教育計画、教育改革

大学教育改革、入試制度

Ⅱ. 学会発表・参加

1. 第7回ユネスコ・アフリカ文部大臣会議出席 Durban 南アフリカ共和国
1998年4月20日～23日 (ICU国際学術交流基金補助研究)
2. FASID EFAと識字 1998年6月1日
3. 大学教育学会シンポジウム 地球市民とリベラルアーツ教育 1998年6月6日
4. 日本国際理解教育学会 ユネスコの国際理解教育概念の変遷 1998年6月13日
5. 野村生涯教育センター 第7回生涯教育国際フォーラム シンポジウム
コーディネーター 1998年8月9～11日

Ⅲ. 研究論文、著作、出版

1. 1997年度国際理解教育スタディーツアー タイ・国際理解教育協同学校 報告書 1997年9月
2. (分担執筆)「ユネスコにおける国際理解教育の概念の変遷」 国際理解教育の理論的実践的指針の構築に関する総合的研究(科学研究費助成基盤研究(A)(1)) 研究成果報告書 研究代表者 中西晃) 11～46頁 1998年3月

Ⅳ. その他

1. Démocratization et développement de l' éducation primaire JICA民主化研究セミナー (仏語圏アフリカ) 1997年12月1日

2. 世界寺子屋運動に期待するもの 名古屋ユネスコ協会 1998年1月17日
3. 識字とEducation for All (EFA) JICA・国立婦人教育会館共催 女性の教育担当者セミナー/JICA研修 1998年2月20日
4. 日本ユネスコ国内委員会総会 1998年2月27日
5. 国際協力事業団 (JICA) WID懇談会 1998年5月26日
6. インドネシア識字教育スタディツアー コーディネーター
1998年6月30日－7月11日
7. 国際協力事業団 (JICA) 研修 識字とEFA 1998年7月15日
8. 日本ユネスコ国内委員会
普及小委員会 1998年7月17日
運営委員会 1998年7月22日
総会 1998年7月30日
9. 国立婦人教育会館 情報処理指導者研修 世界の女性と識字 1998年7月31日

その他、役職

1. 日本ユネスコ国内委員会委員
同普及小委員会委員長
同教育小委員会アーペイド・アピール分科会主査
2. 日本国際理解教育学会常任理事 国際委員会委員長
3. ユネスコ人権平和民主主義国際理解寛容教育国際諮問委員
4. ユネスコ平和の文化国際専門家パネル委員
5. アジア太平洋地域国際教育価値教育ネットワーク (APNIEVE) 事業担当副会長
6. 国際協力事業団 (JICA) WID 懇談会委員
7. 野村生涯教育センター顧問
8. 日本国際交流振興会理事
9. 帝塚山学院大学国際理解教育研究所客員教授
10. 中国吉林省ユネスコ協会顧問 同北国書画社高級顧問
11. 国際基督教大学国際教育交流主任 (1996年4月－1999年3月)

立川 明 教授

I. 研究活動

20世紀のアメリカ合衆国における教養教育の理論と実践を、アメリカ的大学の誕生という枠組みの中に位置付ける試みを行っている。また、特にアメリカを中心として、大学教育と教養文化に関する論争の現代的な展開を検討している。文部省科学研究費 基盤研究 (B) 「多元文化社会アメリカの教育におけるオートノミーとコントロールに関する史的研究」(研究代表者羽田積男)の研究分担者として、大学の部門を分担し、資料収集のため、三度にわたりアメリカ合衆国の諸大学を訪れた。

II. 学会参加

1997年10月11日-12日、九州大学において開催された教育史学会大会に参加した。同10月18日-19日、京都女子大での教育哲学会大会に参加し、一部会を司会した。同10月23日-26日、米国フィラデルフィアで開催された History of Education Society の大会に参加した。1998年1月8日-10日、品川区ゆうほうと で開かれたアメリカ教育史研究会の研究集会において、「大戦間期におけるアメリカのカレッジの復興について」と題する研究発表を行った。同5月6日-9日、タイ国チュラロンコーン大学で開催された第2回APPEND研究会において、「Socrates and Nietzsche for the Twenty-first Century」と題する研究発表を行った。同6月6日-7日、本学を会場として行われた大学教育学会の年次大会に参加し、一部会の司会をつとめた。

III. 著作

1. (図書紹介) 一般教育学会編「大学教育研究の課題」『教育学研究』第65巻、第1号(1998年3月)、103-104.
2. (図書紹介) 相山正弘「アメリカ教育の変動」『アメリカ学会会報』129号(1998年4月)、2-3.

IV. その他

1. 教育哲学会 『教育哲学研究』 編集委員・英文校閲係
2. 日本教育学会 選挙管理委員

林 昭道 準教授

I. 研究活動

近代以降のドイツ教育思想史
キリスト教と教育について

IV. その他

1997年4月に開始した共同研究「キリスト教と教育のかかわり」の主査
共同研究者は、町田健一準教授、千葉杲弘教授、立川明教授。
この共同研究は、1999年度まで継続の予定

町田 健一 準教授

I. 研究活動

1. 初等・中等教育レベルにおける私立学校調査
 - ・建学の精神とその取り組みの歴史
 - ・一貫教育の意義と問題点
 - ・寮教育の意義と問題点
2. 教員養成に関する研究
 - ・教育実習体験の実証的研究：態度変容についての分析
 - ・キリスト教学校教育における教師教育の課題
3. 教育課程の革新とその実施に関する研究

上記「1」～「3」項に関する研究取材を下記の日程で行った（継続研究）。

研究取材（ビデオ教材作り）：キリスト教愛真高等学校

風間文子氏（校長）他数名の教員インタビュー 1997年11月17日－18日

研究取材（ビデオ教材作り）：聖隷学園高等学校

秋葉保氏（校長）他数名の教員インタビュー 1997年11月18日－19日，21日

4. 数学教育研究

- ・数学教育の目標論及び教育内容の精選と構造化
- ・問題解決学習における効果的な内言形成

- ・コンピューター教育の目的と問題点
- 5. 生徒指導に関する研究
 - ・道徳教育における教育哲学と問題点
 - ・性教育における教育哲学及び教育内容

II. 研究大会・その他の研究発表

1. 「教師教育教材の製作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録および分析方法について(6) (ビデオ教材作成)」メディア教育開発センター教材研究室研究会, メディア教育開発センター, 1997年9月22日
2. 「教育実習体験の実証的研究: 研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して(7)」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1997年9月22日
3. 「教育実習体験の実証的研究: 研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して(8)」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1997年12月1日
4. 「教師教育教材の製作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録および分析方法について(7) (ビデオ教材作成)」メディア教育開発センター教材研究室研究会, 立教大学, 1997年12月15日
5. 「教育実習体験の実証的研究: 研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して(9)」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1998年1月19日
6. 「教師教育教材の製作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録および分析方法について(8) (ビデオ教材作成)」メディア教育開発センター教材研究室研究会, 立教大学, 1998年2月23日
7. 「教育実習体験の実証的研究: 研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して(10)」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1998年3月18日
8. 「心を育てる学校教育の再生」(指定討論者として), 日本心の教育研究開発協会第1回研修大会 (PAS心理教育研究所), 1998年3月21日
9. 「教師教育教材の製作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録および分析方法について(9) (ビデオ教材作成)」メディア教育開発センター教材研究室研究会, 放送大学東京連絡所, 1998年4月20日
10. 「教育実習生の成長過程にかかわる指導教諭の事前・事後指導のあり方」関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会・東京地区教育実習研究連絡協議会 1998

年度研究大会, 立教大学, 1998年5月17日

11. 「教育実習における実習校・大学それぞれの課題」平成10年度第1回教員の資質向上東京都連絡協議会, 東京都庁, 1998年7月17日
12. 「教師教育教材の製作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録および分析方法について (10) (ビデオ教材作成)」メディア教育開発センター教材研究室研究会, メディア教育開発センター, 1998年7月30日

学会参加

1. 「第1部会」司会, 日本キリスト教教育学会 第10回大会, 日本キリスト教教団大森めぐみ教会, 1998年6月6日
2. 日本教育心理学会 第40回大会, 北海道教育大学 函館校, 1998年7月19-20日参加

Ⅲ. 研究論文

1. 「望ましい教育実習体験とは：広がり・深まりの形成」『日本教師教育学会年報』第6号, 1997年10月, 114-133頁。
2. 「教育実習生の成長過程にかかわる指導教諭の事前・事後指導のあり方」『関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 会報』第44号, 関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会, 1997年12月22日, 38-47頁

その他の出版物

1. (編集アドバイザーとして) 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～教育実習中学校編～(社会科地理を例に)』放送教育開発センター編, ジェムコ出版株式会社, 1997年10月
2. (編集アドバイザーとして) 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(中学校・社会科地理)』放送教育開発センター編, ジェムコ出版株式会社, 1997年10月
3. (編集アドバイザーとして) 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～教育実習高等学校編～(公民科現代社会を例に)』放送教育開発センター編, ジェムコ出版株式会社, 1997年10月
4. (編集アドバイザーとして) 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(高等学校・公民科現代社会)』放送教育開発センター編, ジェムコ出版株式会社, 1997年10月
5. 「自らの生き方を問い続ける学び:生涯教育の観点から」『Signs of the Times』4

月号, 福音社, 1998年4月1日, 4-5頁

IV. 研究委員等

1. 東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員 1993年2月～
2. ICU教育研究会 (ICU教育セミナー) 世話人 (準備委員) 1992年4月～
3. メディア教育開発センター 教師教育教材制作チームアドバイザー, 1997年4月～
4. 文部省教育改革モニター 1997年4月～
5. 東京地区教育実習研究連絡協議会 運営委員 1998年度
6. 東京都教員の資質向上連絡協議会委員 1998年度

研究助成金

1. 国際基督教大学研究助成金補助金, 1997年度, 1998年度 (林昭道氏, 立川明氏, 千葉果弘氏との共同研究)
2. 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (1), 1998年度 (武蔵大学 黒澤英典氏他との共同研究)

<心理学研究室>

小谷 英文 教授

I. 最近の研究活動内容

1. Techniques of psychotherapy
 - 1) Individual psychotherapy
 - 2) Group psychotherapy
 - 3) Combined psychotherapy
 - 4) Pluralistic-integrative psychotherapy
 - 5) Case management
2. Psychodynamics of difficult patients
3. Training methods of psychotherapy
4. Training methods of psycho-educational techniques for school teachers

II. 学会発表

シンポジスト「集団精神療法の教育と訓練の経験から」第15回日本集団精神療法学会大会シンポジウム「集団精神療法の研修」於 東京都 1998年3月20日

講演・ワークショップ

1. 集中講義「臨床心理学特別講義」広島大学大学院 学校教育学研究科、1997年9月25-28日
2. 基調講演「集団力学と治療的介入」第18回全国情緒障害児短期治療施設職員研修会（治療部会）於 広島市 1997年10月30日
3. 公開スーパーヴィジョン「退院しない患者」相州精神療法研究会 於 厚木市 1997年11月25日
4. 集団精神療法臨床指導 静岡集団療法研究会 於 静岡市 1998年2月14日
5. 基調講演「調査官面接の成果責任と力動的面接法」及び公開スーパーヴィジョン第1回精神力動的調査面接研究会（PCIA）於 大宮市 1998年2月21日
6. 「日本心の教育研究開発協会」設立集会「心を育てる学校教育の再生」主宰 於 東京都 1998年3月21-22日
7. 日本学生相談学会年次大会 事例研究発表 座長 於 国際基督教大学 1998年5月17日
8. 公開ワークショップ「集団精神療法ワークショップ:臨床技法の実際」、新潟県立病院悠久荘 主催、於 長岡市、1998年6月20-21日
9. 心理療法技法指導 駿河心理臨床研究会 於 静岡市 1998年6月27日
10. 公開ワークショップ「集団精神療法の基本力動と基礎技法」相州精神療法研究会主催 於 厚木市、1998年6月30日
11. ICU精神分析的な心理療法セミナー主宰/トレーナー、講師Morton Kissen、Ph. D. 「力動的な心理療法の技法基礎」、於 国際基督教大学、1998年7月15日
12. 国際力動的な心理療法研究会ワークショップ・トレーナー/講師Mortonn Kissen、Ph. D. 「力動的な心理療法における特別な問題とその解決」、於 国際基督教大学、1998年7月18日
13. 国際力動的な心理療法研究会リレー講演会主宰、鐘幹八郎「孤独と夢」、於 国際基督教大学、1998年7月19日
14. 国際力動的な心理療法研究会第4回年次大会主宰、大会テーマ「治療同盟」、於 国際基督教大学、1998年7月19-20日
15. 集中講義、「臨床心理学」、広島大学学校教育学部、1998年8月4-7日
16. ワークショップ参加“Systems-Centered Group Psychotherapy” chaired by Agazarian,

Y. M., Ed. D., at 13th International Congress of Group Psychotherapy, London, August 24-28, 1998

Ⅲ. 研究論文

1. 「集団精神療法の進歩—単独処方から多元統合療法へ—」『最新精神医学』第2巻第6号、1997年11月、527-533頁
2. 「小集団精神療法の臨床的基礎」『集団精神療法』第14巻第2号、1998年、20-32頁
3. (共著)「精神分裂病の集団心理療法(集団精神療法):初期過程の治療要因と技法」『心理臨床学研究』第15巻第6号、1998年、585-597頁(共著者 杉山恵理子 小沢良子)

著書

分担執筆

「集団療法」大塚義孝 編 現代のエスプリ別冊〈臨床心理学シリーズⅢ〉『心理面接プラクティス』至文堂:東京 1998、105-115.

エッセイ

「集団精神療法に対する大きな誤解」『精神療法』第24巻第5号、1998年、464-466頁

Ⅳ. 学会・研究団体等における役職

1. 日本集団精神療法学会学会誌編集委員長, 同教育・研修委員
2. Director, International Association of Dynamic Psychotherapy
3. 日本集団精神療法学会常任理事
4. 日本心の教育研究開発協会 代表
5. Academic Program Organizer, Pacific Rim Regional Congress, International Association of Group Psychotherapy.

栗山 容子 教授

I. 最近の研究活動

1. 母親の言語的社会化方略と子どもの言語発達に関連: JCHAT/CHILDESによるインタラクションデータの分析
2. 一般学習能力考査 (SAT: Scholastic Aptitude Test) の追跡研究

II. 学会発表

1. 36ヶ月児の言語発達と母親の言語的社会化方略—述部を中心とした発話のカテゴリ分析— (井上純子と共同発表) 日本発達心理学会第9回大会1998年3月26-28日 日本女子大学 (発表論文集pp. 121)

III. 報告書

1. 「高等学校における英語の授業に関するアンケート」調査結果報告書1997年12月 (吉岡元子と共同執筆)
2. ICU入学試験研究報告書 '97英語学力考査の分析—高等学校の英語の授業方法の違いによる入試結果の検討—1998年2月
3. 平成7, 8, 9年度科学研究費補助金基礎研究 (A) 研究成果報告書「多変量データ解析の利用による大学入試データ解析システムの開発」(研究代表者 柳井晴夫 大学入試センター研究開発部) 1998年3月
 - (I) 英語聴解力テストに関わる要因の分析 51-59頁.
 - (II) SATは入学後の成績を予測するか (その1) SATの内容分析 255-260頁. (再収録)

IV. その他

1. 大学入試センター試験利用をめぐって「マークシートの特性とその利用」大学時報 1997年9月号 Vol.46, No.256, 60-63頁.
2. 講演「母語の獲得」朝日カルチャーセンター日本語講座 1997年9月29日

研究助成金

1. 平成10年度科学研究費補助金研究成果公開促進費 「JCHATによる言語習得のための日本語発話資料」(代表者 寺尾康) 分担者

磯崎 三喜年 準教授

I. 研究活動

1. 自己評価維持機制と社会行動に関する研究
2. 社会的状況における人間行動に関する研究
3. 自己概念と適応に関する研究
4. 自己にとっての関与度と課題遂行の関連について

II. 学会発表 (参加)

1. 「自他の成績評定における自己評価維持と学級適応」 日本心理学会第61回大会
発表論文集, 関西学院大学, 1997年9月18日, p.125.
2. THE 15TH ANNUAL TEACHERS COLLEGE WINTER ROUND TABLE ON
CROSS CULTURAL PSYCHOLOGY AND EDUCATION PRESENTS:
UNDERSTANDING AND DEALING WITH PERSONAL AND SOCIAL
VIOLENCE New York, Teachers College, Columbia University 1998年2月20
日~21日

III. 研究論文

1. 「小集団の集団力学:社会心理学的展望」『集団精神療法』第13巻2号, 1997
年10月, 155-164頁
2. 「要求水準とポジブル・セルフ、自尊感情、課題への関与度の関連について」
『教育研究』第40号, 1998年3月, 11-33頁 (黒石憲洋と共著)

著書・分担執筆

1. 「社会的比較と自己評価の維持」 安藤清志・押見輝男 (編) 『自己の社会心
理』 1998年7月 誠信書房 pp.97-116.

デイヴィッド W. ラッカム 準教授

I. Research Activities

1. Psychological considerations in the development of new display consoles for the
controller/radar coordinator team in en route air traffic control (with Hiroki Sato,

Japanese Ministry of Transport, Electronic Navigation Research Institute, Mitaka, Tokyo, Japan).

2. Improving the correspondence between university admissions credentials and subsequent academic performance.
3. The psychological impact of climatological factors.
4. Counselling in a cross-cultural context (with Thomas Kennedy, E. Ed., Japan Baptist Mission, Tokyo Japan).
5. Psychology's contribution to the solution of problems on the public agenda.

I. Conference Attendances and Activities

1. Director, Department of Psychology Colloquium Series, International Christian University, April 1996 to present.

Presentations

1. Sato, H. and Rackham, D. W. (1998). Improving the human-machine interface in air traffic control: task analysis of existing ATC. Paper presented at the Fourth Australian Aviation Psychology Symposium (Aviation Resource Management: a Workshop Based International Symposium), Manly Pacific Parkroyal Hotel, Sydney, Australia, March 16-20, 1998.
2. Rackham, D. W. (1998). Graphical and statistical analyses of language research data. A workshop presented on behalf of the ICU LLL Lecture Series, Department of Linguistics, International Studies Division, March, 1998.
3. Rackham, D. W. (1998) "Look what a wonderful man was living on this earth: discovering Dietrich Bonhoeffer. ICU Chapel Hour Talk, May, 1998.

IV. Other Activities

1. English language services for the Japanese Group Psychotherapy Association and the Japanese Journal of Group Psychology.
2. Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ).
3. Subscription and circulation services on behalf of The Japan Christian Review.
4. A variety of community services of an educational and service nature in connection with missionary associate/overseas personnel status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).

笹尾 敏明 助教授

I. Current Research Activities

1. school- and community-based mental health and drug abuse prevention research,
2. an experimental study on negative affect and self-discrepancy,
3. a cross-cultural and multicultural research on the development of cultural competence in collaboration with U. S., Korean, and Hong Kong researchers,
4. translation work of a social psychology textbook,
5. textbook project ("International Community Psychology") in collaboration with U. S. researchers

II. Presentations

1. Sasao, T. (1997, August). Cultural identification and psychological well-being among mixed-heritage adolescents. Paper presented at the American Psychological Association annual convention, Chicago, IL.
2. Sasao, T. (1998, February). Perceived racial/ethnic tension and psychological well-being among Asian American adolescents: An ecological approach. Paper presented at the 15th Annual Teachers College Winter Roundtable on Cross-Cultural Psychology and Education, New York, NY.
3. Sasao, T., Niiya, Y., Nishimura, M., & Matsumoto, M. (1998, March). Prevention & Culture: An often neglected linkage in community psychology. Paper presented at the 23rd Japanese Community Psychology Symposium, Hisayama, Fukuoka, Japan.
4. Sasao, T., & Niiya, Y. (1998, August). Self-discrepancy and negative affect in collectivistic and individualistic contexts. Paper presented at the annual conference of American Psychological Association, San Francisco, CA.
5. Sasao, T., Nishimura, M., & Kano, M. (1998, August). Understanding social interaction patterns in a multicultural high school setting: An ecological approach. Paper presented at the annual conference of American Psychological Association, San Francisco, CA.

III. Articles

1. Sasao, T. (1997). Identifying at-risk Asian American adolescents in multiethnic

- schools : An ecological approach. In B. Yee, N. Mokuau, & S. Kim (Eds.), *Cultural competence for professions working with Asian/Pacific American communities : Theoretical and practical considerations* (CSAP Asian American Monograph). Rockville, MD: Center for Substance Abuse Prevention.
2. Sasao, T. (1998). *The social psychology of prevention*. In I. Saito (Ed.), *Handbook of social psychology* (Vol. 7). Tokyo, Japan: Seishin Shobo Books.
 3. Sasao, T. (in press). *Perceived racial/ethnic tension and psychological well-being among Asian American adolescents : An ecological approach*. In B. Wallace (Ed.), *Violence among America's racial minorities*. New York : Teachers College Press.

Miscellaneous Publications

1. Sasao, T. (1997). *Obvious and not-so-obvious messages of a course syllabus*. ICU Faculty Development Newsletter, International Christian University, Tokyo, Japan.
2. Sasao, T. (1998). *Looking at diversity issues from a different shore... Responses to the Presidential Column "Gender, race, and community : Creating contexts for diversity within community psychology*. *The Community Psychologist*, 31 (3), 11-12.

IV. Professional Activities

1. Journal reviewer for : ① *Journal of Community Psychology*, ② *American Journal of Community Psychology*, ③ *Journal of Educational and Psychological Consultation*, ④ *Women's Health*, and ⑤ *American Journal of Public Health*, ⑥ *Journal of Social Issues*, and ⑦ *Japanese Journal of Community psychology*
2. Western Regional Coordinator, *Society for Community Research and Action*
3. Chair, *Racial and Cultural Affairs Committee, Society for Community Research and Action*
4. *Asia-Pacific International Coordinator, Society for Community Research and Action*
5. Board Member, *National Asian Women's Health Organization, San Francisco*
6. Ph. D. Dissertation Advisory Committee Member for Jon Kaplan, M. A. at the *University of California, Los Angeles, CA, U. S. A.*
7. Secretary and Board Member, *Gospel Venture International Church, Torrance, CA, U. S. A.*

8. Listed in Who's Who in Medicine and Healthcare (1st ed.) (1996-). New Providence, NJ: Marquis' Who's Who; Men of Achievement (1995, 1996, 1997); Marquis' Who's Who in the World (1995-97).

Research Grants

1. ICU College of Liberal Arts Research Grant: Prevalence and correlates of alcohol and cigarette use among ICU students ¥850, 000
2. National Institute on Drug Abuse (Rockville, MD): "Substance use among Asian American Adolescents" \$400, 000
3. National Institute on Drug Abuse (Rockville, MD): "Cultural identification and substance use among mixed-heritage adolescents" \$50, 000
4. Shin-Kong Company Ltd. (Taipei, Taiwan): "Community-based substance abuse prevention for immigrant Asian youth" \$20, 000

向井 敦子 講師

I. 研究活動

1. 自閉症を疑われる4歳女兒に対する対人関係の発達を促進する心理学的実践研究
2. 脳性麻痺児に対する概念の発達を促進する心理学的工作
3. 対人関係における原因帰属と態度

II. 学会発表

1. 「ある脳性麻痺児に対する学習場面の構成過程」
日本教育心理学会第39会総会発表論文集 469頁、1997年9月 於 広島大学
2. 「対人関係からみた不利益を被る状況に対する原因帰属と態度」
日本発達心理学会第9会大会発表論文集 312頁、1998年3月 於 日本女子大学
3. 「自閉症と受動主体化の促進工作 [1] [2]」
日本教育心理学会第40会総会発表論文集262-263頁、1998年7月 (深谷澄男との共同研究、向井は [2] を発表した) 於 北海道教育大学函館校

Ⅲ. 著作

1. 「対人認知の発達」星野命編「対人関係の心理学」第2章日本評論社 1998、pp. 15-35.

〈視聴覚教育研究室〉

阿久津 喜弘 教授

I. 研究活動

1. 「教育コミュニケーション研究」の体系化
2. 「メディア行動」の分析

II. 学会参加

1. 日本教育社会学会第49回大会、1997年10月10日-12日、千葉大学教育学部
2. 日本子ども社会学会第5回大会、1998年6月12日-14日、宮城教育大学教育学部

Ⅲ. 研究論文

「新しい通信メディア利用による子どもの対人関係に関する研究」(佐々木輝美・和田正人・海後宗男・渡辺功・石川勝博との共同研究)『電気通信普及財団研究調査報告書』No.12、1998年1月、201-215頁

IV. その他

1. 日本視聴覚・放送教育学会理事、編集委員
2. 日本子ども社会学会理事、研究刊行委員長、研究交流委員
3. 現代生涯教育研究所顧問
4. Deputy Governor, The American Biographical Institute Research Association

石本 菅生 教授

I. 研究活動

1. CAIシステムと教材基礎研究用の分析ツールの開発研究
2. 大学における情報教育カリキュラム等に関する研究

IV. 学会研究団体における役職

1. 日本視聴覚・放送教育学会理事 1994～1997、1997～
事務局長 1994～1997、1997～
2. 社団法人私立大学情報教育協会
 - ・情報教育方法研究会運営委員 1992～1994、1994～1996、1996～1998、1998～
 - ・情報教育方法研究賞審査委員 1996、1998
 - ・相談助言協力者 1993～

中野 照海 教授

I. 研究活動

1. マルチメディア研修計画の推進（文部省研究開発事業助成・日本視聴覚教育協会、平成10年度 座長）
2. 「インターネットを活用した英語学習システムの研究開発」（文部省研究開発事業助成・日本視聴覚教育協会、平成10年度 座長）
3. 「メディア教材のプロトタイプに関する研究開発」（文部省科学研究費平成10年度研究分担者）

上記は研究費助成を得て行なっている研究の他に、マルチメディアの教育利用に関する研究、視聴覚教育の評価に関する研究、教育過程における画像の機能に関する基礎的研究などとともに、教育メディアに関わる海外技術移転の研究（JICA）、人口教育におけるIECのための方略策定に関する研究（JICA）などの研究を進めている。なお、1988年より1998年までの10年間、2期に渡って継続してきた「トルコ人口教育促進プロジェクト」（JICA）の成果のまとめと評価を行なっている。

II. 学会発表等

1. 研究発表（山王丸浩子と共同）「マルチメディアにおける」教育工学関連学協会連合第5回大会（1996年10月27日於東京電気通信大学）
2. 研究発表（三河内彰子と共同）「マルチメディアにおける」教育工学関連学協会連合第5回大会（1996年10月27日於東京電気通信大学）

Ⅲ. 著作

[研究論文]

1. 「教育利用にみる映像の発展の方向」(山王丸浩子と共同)『教育工学関連学協会連合第5回大会論文集』日本視聴覚放送教育学会第3回大会発表論文集 1996年pp.132-133.
2. 「教育利用にみる映像の発展の方向」(三河内彰子と共同)『教育工学関連学協会連合第5回大会論文集』日本視聴覚放送教育学会第3回大会発表論文集 1996年pp.647-648.
3. 「知識人から学習人へ——放送教育に期待される役割」『放送教育』1997年10月pp.11-13.
4. 「機器の輪と人の輪の活用」『視聴覚教育』1997年12月pp.59-61.
5. 「バーチャルリアリティとは?——教育と経験と認識を考える」『視聴覚教育』1998年7月pp.56-59.
6. 「日本視聴覚教育学会の歩み その3——学会の発足から日本放送教育学会との合併に至る期間の後半期——」『教育メディア研究』第4巻第2号 1998pp.33-43.
7. 「はじめに」pp.2-3、「研究の背景と目的」pp.6-9、「教育所産の開発」pp.10-12、「本教材の開発」pp.14-15、「研究の総括と展望」pp.65-69.『インターネットによる英語学習—教材の開発と活用(文部省委嘱研究開発事業報告書)』1998年3月

[専門関係出版物]

1. 「マルチメディアの研究開発の課題」『マルチメディア教材研究開発ワークショップテキスト』1998年8月pp.6-15.
2. 「教育課題と取り組む視聴覚教育——映像による育つものへの期待——」日本視聴覚教具連合会編『視聴覚教育ハンドブック97年版』1996年8月pp.4-5.
3. 「カナことばの自粛」『視聴覚教育時報』1998年6月p.1
4. 以下は視聴覚教育に関わるエッセーで、雑誌『視聴覚教育』に寄稿したものである。
 「パフォーマンスを基にする評価—複雑な教育課題に就いて—」1997年9月p.81.
 「研究の流行と理論枠—教育工学関連学協会連合第5回大会より」1997年10月p.43.
 「マルチメディアによる高等教育—法律・制度の整備—」1997年11月p.47.
 「ネットワークからの学習—新たな学習方法の吟味—」1997年12月p.63.

「映像の働きへのヒント—「について」の知識と「の」の知識—」1998年1月
p.33.

「系統的な情報教育の展開—一貫性を保つ教科・領域として—」1998年2月p.37.

「視聴覚教育の復権—画像の役割への期待—」1998年3月p.35.

IV. その他

[講演・放送等]

1. 講演「教えることから学ぶことへ—教授のモデルを中心に—」FD研究会
大学セミナーハウス 1997年9月20日
2. 講義「複雑な行動の評価—特に情意領域の評価を中心に—」東京都中学校放送
教育研究会（高田中学校）1997年11月27日
3. 講義「視聴覚教育の意義と方法」長野県生涯学習センター 1997年12月4日
4. 講評「1997年度視聴覚教育賞について」1997年12月15日
5. Lecture, Problems of Evaluation for Audiovisual Communications, Jan. 22-23, 1998,
JICA Okinawa International Center.
6. 「これからの放送教育の課題」東京都中学校放送教育研究会 1998年1月19日
7. プロジェクト評価「トルコ人口教育促進プロジェクト」(JICA) 1998年7月12
日—24日（ブルサ、アンカラ、シヴァス）
8. 講義「マルチメディアの研究開発の課題」マルチメディア・ワークショップ
(日本視聴覚教育協会) 1998年8月17日
9. 講義「マルチメディアの教育利用—今後の課題」
マルチメディア・ワークショップ（日本視聴覚教育協会）1998年8月19日（国
立教育会館）
10. パネル討議「21世紀をめざす視聴覚教育」第2回視聴覚教育総合全国大会—東
京大会—、1998年8月27日（国立教育会館）

[学会・研究団体・審議会等]

1. 日本視聴覚・放送教育学会会長
2. 日本教育工学会理事 出版担当
3. 文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会特別委員
4. 文部省生涯教育審議会教育メディア部会委員
5. 文部省生涯学習局新教育メディア研究開発委員会委員
6. 国立放送教育開発センター客員教授
7. 国際協力事業団トルコ人口教育促進プロジェクト国内委員会委員長

8. 同チュニジア人口教育促進プロジェクト国内委員会委員長 (1997年10月まで)
9. 同ホンデュラス国立教育研究所研究協力委員会座長 (1997年10月まで)
10. 「視聴覚教育賞 (文部大臣賞)」 (文部省・日本視聴覚教育協会) 選考委員会委員長
11. 財団法人日本視聴覚教具連合会会長 (1998年5月まで)
12. 財団法人日本視聴覚教育協会理事
13. マルチメディア教材コンクール (日本教育新聞社) 審査委員
14. 東京都教育委員会生涯学習部「ファミリー東京」(TV番組) 委員 (1998年5月まで)
15. 日本マルチメディア・フォーラム (JMF)・アドバイザーボード委員

〈英語教育研究室 English Teaching Department (ETD)〉

ジョン・C・マーハ 教授

I. 研究活動

Dictionary of Place Names. Project : year 3.

Language Awareness. Project : year 4.

(With H. Giles et al) Pacrim International Survey on Intergenerational Communication.

III. 研究論文

1. "Linguistic Minorities and Education in Japan" Educational Review vol. 49, No. 2
1997 pp. 115-127
2. 「日本におけるコミュニティ言語:現状と政策」多言語・多文化コミュニティの
ための言語管理:差異を生きる個人とコミュニティ、国立国語研究所 1997年
pp. 55-73
3. 「日本におけるコリアン・バイリンガリズム」多言語・多文化コミュニティのた
めの言語管理:差異を生きる個人とコミュニティ、国立国語研究所 1997年
pp. 75-87
4. (共著)「イギリスのバイリンガル教育」教育研究 40 1998年3月 pp. 35-65
(共著者 白井直人)

著書

(分担執筆)

1. Ainu. *In The Beloved Language: the content of positive ethnolinguistic consciousness.* Joshua Fishman. (Ed.). Mouton Gruyter, Berlin, 1997 pp.183-184.

その他の出版物

1. (辞典項目) Bateson, Gregory (1904-80)" Mey., J. L. (ed) *Concise Encyclopedia of Pragmatics.* Elsevier Science Ltd. 1998. p.315.
2. (辞典項目) "Foucault, Michel (1926-84)" Mey., J. L. (ed) *Concise Encyclopedia of Pragmatics.* Elsevier Science Ltd. 1998. pp.1293-1294.
3. (辞典項目) "Freud and Language" Mey., J. L. (ed) *Concise Encyclopedia of Pragmatics.* Elsevier Science Ltd. 1998. pp.1306-1307.
4. (辞典項目) "Lacan, Jacques (1901-81)" Mey., J. L. (ed) *Concise Encyclopedia of Pragmatics.* Elsevier Science Ltd. 1998. p.1891.
5. (辞典項目) "Medical Language" Mey., J. L. (ed) *Concise Encyclopedia of Pragmatics.* Elsevier Science Ltd. 1998
6. (書評) "The Native Speaker in Applied Linguistics by Alan Davis" *TESOL Quarterly* vol. 31, No. 3 1997. pp.650-651.
7. (エッセイ) バイリンガル社会の意識に向けて. 社会教育、1997年11月
8. (新聞記事) "Linguistic Myths can Make You Laugh, but Like Snow, They Always melt in the End" *The Daily Yomiuri*, April22, 1996. p.15
9. (新聞記事) "Argot Gives Kids Contorol" *The Daily Yomiuri*, December22, 1997. p.14
10. (新聞記事) "Queen' s English with a Touch of Class" *The Daily Yomiuri* January12, 1998. p.16
11. (新聞記事) "The Latest Joke Heard about Town" *The Dairy Yomiuri*, February 9, 1998. p.15

IV. 講演

Lecture on the Japanese language at Japan Society of Promotion of Science. 1996 (Spring, Autumn), 1997 (Spring, Autumn, Winter), 1997 (Spring)

「医学コミュニケーションについて」和歌山医科大学 1996年11月12月, 1997年11月12月

Lecture on Varieties of English at Asia-Africa Gogakuin. 1997 (November)

学会における役職

社会言語科学会 理事 編集委員 1996年～

Editorial Board member of the Japanese Journal of Language and Society 1998—

Editorial Board member of Medical Education 1997—

Review Editor for International Journal of Bilingual Education and Bilingualism 1997—

Coordinator of Sociolinguistics Association of Japan 1997 Symposium on Language Shift.

Coordinator of a panel on Language and Psychoanalysis at International Congress of Linguists in France 1997.

研究助成金

学校法人国際基督大学研究助成基金補助金 1998年

ティモシー J. ライネイ 準教授

I. Research Activities

1. I am writing a sociolinguistics textbook aimed at undergraduates in applied linguistics, sociolinguistics, and training programs for language teachers. The topics span macro-sociolinguistic areas as well as - "World English" areas (e. g., new literatures in English). The approach is a organization of the text that relies on addressing several topics through one well-contextualized country or region (e. g., Tanzania), rather than addressing one topic (e. g., Language Planning) through several countries or regions. The assumption is that a higher degree of contextualization will better convey the sociolinguistic situation and topic. The text focuses on areas of Southern Asia and Africa, with special focus given to six countries : Singapore, India, Egypt, Nigeria, South Africa, and Tanzania.
2. Testing current theories (e. g., by Flege and Eckman) of phonetic and phonological perception, production, and acquisition through experiments involving computational and acoustic analysis. Currently analyzing longitudinal data of English produced by native speakers of Japanese. The collection involves 16 speakers, 4 tasks, and

2 times over an interval of 4 years. I am also in the process of collecting a new data base of native English and Japanese subjects (age 30 to 60) who are long time residents of Japan and established English-Japanese bilinguals in order (1) to test the maturation hypothesis (related to critical age), (2) to test if there is a convergence of voice onset time in the languages of bilinguals, and (3) to replicate the current "standard" study of Japanese voice onset time.

I. Conference presentation

1. Riney, T. (1997. 12). Accounting for the working languages of southern Asia and Africa. Fourth International Conference on World Englishes, Singapore.

III. Publications

1. Riney, T. (1998). Pre-colonial systems of writing and post-colonial languages of publication. Journal of Multilingual and Multicultural Development, 19, 1, 64-83.
2. Riney, T. & Flege, J. (1998). Changes over time in global foreign accent and liquid identifiability and accuracy. Studies in Second Language Acquisition, 20, 2, 213-243.
3. Riney, T. (1998). Toward more homogeneous bilingualisms : Shift phenomena in Singapore. Multilingua, 17, 1 -23.

IV. Other activities

1. Software for analyzing foreign accents. Lectures in Language and Linguistics. International Christian University, Tokyo.
2. Referee for Journal of Multilingual and Multicultural Development and JALT Journal.

〈研究員 I〉

深谷 潤

I. 研究活動

1. カール・ヤスパーズのエデュケーション哲学研究
2. キリスト教教育の哲学的考察

II. 学会参加および研究発表

1. 1997年10月18-19日 教育哲学会 第40回大会 (京都女子大学) 参加
2. 1997年11月20-21日 キリスト教学校同盟大学部会研究集会 (名古屋) 参加
3. 1997年12月6日 日本ヤスパーズ協会 第14回大会 (早稲田大学) 参加
4. 1998年3月27日 日本基督教学会近畿支部会 (同志社大学) 参加
5. 1998年6月5日 第5回キリスト教教育研究会 (九段教会) 参加
6. 1998年6月6日 日本キリスト教教育学会 第10回大会
(大森めぐみ教会) 研究発表 題目:
「信仰と不信仰の転換点に関する一考察
—ヤスパーズとティリッヒを手がかりに—」
7. 1998年8月10-16日 Twentieth World Congress of Philosophy
The International Federation of Philosophical Societies
(FISP) 主催 (ボストン) 研究発表 Title:
Christianity for the Japanese and Jaspers' Philosophy
8. 1998年8月27-29日 日本教育学会 第57回大会 (香川大学) 参加

III. 研究論文および報告

1. キリスト教教育における「つまずき」の意義
—ヤスパーズとブルトマンにおける聖書の位置づけ—
平安女学院短期大学紀要 第28号 1998年3月 pp.69-77
2. 聖書物語を通しての子どもとイエスの出会い
平安女学院短期大学保育研究会 「保育研究」第26号 1998年3月 pp.26-31
3. 第4回キリスト教教育研究会報告 (分担執筆)
キリスト教教育論集 第6号 日本キリスト教教育学会 1998年5月 p.95

IV. その他

1. 講演「キリスト教保育について」八葉会主催、平安女学院短期大学於
1997年9月4日
2. 日本キリスト教教育学会研究プロジェクト実行委員として
「戦後のキリスト教教育の歩みを振り返る研究プロジェクト」に従事
1998年6月より

石井 由理

I. 研究活動

日本の高等教育改革
教員養成課程における国際理解教育

II. 学会発表

10th World Congress of the World Council of Comparative Education Societies (1998年7月)にて以下2論文を発表。

“Can Japanese Children Survive in the 21st Century ? : Toward new values for education in Japanese education reform in the 1990s” (共著)

“Curriculum Reform in Japan and Britain : A comparative study”

III. 研究論文

“The Politics of Curriculum Change in Japan : A case study of the introduction of Seikatsuka” [Life Environment Studies] in *Journal of Education Policy* vol. 13, no. 1, pp. 27-40.

「日本とイギリスのカリキュラム改革に関する一考察」『教育研究40』国際基督教大学教育研究所、121-145頁。

IV. その他

北九州大学外国語学部特別講演会「グローバル教育の日英比較」1998年1月 講師。

影山 礼子

I. 研究活動

1. 「女子大学の国際比較研究—日本・韓国・米国の事例を中心に」(1996～98年文部省科学研究費基盤研究C)のテーマで研究中である。米国マサチューセッツ州のウェルズリー女子大学(Wellesley College)の調査結果を資料として既に出版、韓国ソウル特別市の梨花女子大学(Ewha Womans University)の調査結果は1998年3月に資料として出版予定で原稿は提出済みである。また1998年8月下旬より9月初旬まで韓国教育開発院(Korean Educational Development Institute)および韓国女性開発院(Korean Women's Development Institute)で現地調査を実施、韓国高等教育についての資料の補足を行った。今後は日本女子大学(Japan Women's University)を中心に、日本の女子大学の歴史・現状・展望を探り、研究の成果をまとめる予定である。
2. 同志社大学人文研究所の嘱託研究員として「女性キリスト者研究」班に属し、女性キリスト者に関する文献の収集・整理、およびキリスト教雑誌の女性項目抽出の作業を共同で進めている。
3. 日本近・現代のプロテスタント諸派、キリスト教教育、日本基督教団、讃美歌等の歴史について研究中である。
4. 渋沢栄一の教育思想と活動について執筆した。

II. 学会活動

1. 1997年10月17日 教育思想史学会(京都大学)に出席し、会計監査を担当した。
2. 1997年10月18日～19日 教育哲学会第40回大会(京都女子大学)に参加した。
3. 1998年4月17日 日本女子大学附属中学校創立記念式(日本女子大学西生田成瀬記念講堂)にて講演した。
4. 1998年6月6日 日本キリスト教教育学会(大森めぐみ協会)に参加、選挙管理委員を担当した。
5. 1998年7月4日～5日 比較教育学会(麗澤大学)に参加した。

III. 出版物

1. 「成瀬先生とウェルズリー女子大学」『成瀬記念館 No.13』日本女子大学、1997年12月
2. 「朝河貫一の恩人—ウィリアム・J・タッカー」『甦る朝河貫一』国際文献印刷

社、1998年1月

3. 「ウェルズリー女子大学 (Wellesley College) の資料を求めて」『国際武道大学研究紀要』第13号、1998年3月

金 泰 勲

Ⅱ. 学会発表

1. 課題研究Ⅱ「学校教育と親の団体との新しい関係」
日本比較教育学会第34回大会 (1998年7月5日 麗澤大学)

Ⅲ. 学術論文

1. 名 称：「韓国における国際理解教育の現状及び問題点」
発行年：1998年3月
発行所：『日本大学教育制度研究所紀要』第29号、日本大学教育制度研究所
概 要：本論は、韓国の初等・中等・高等教育機関における国際理解教育の現状と、児童・生徒らに対するアンケートの分析を通して、韓国における国際理解教育の内容・方法・意識等の現状と問題点を明らかにし、その改善策と今後の展望を提示したものである。

編著

1. 名 称：「朝鮮」「朝鮮及満洲」(全42巻+別巻1 資料編：解説)
発行年：1998年6月～2000年12月
発行所：皓星社

鬼 頭 蕾 子

Ⅰ. 研究活動

MK図書館研究所 第3回 研究セミナー '98
図書館運営に於ける省力化と省エネルギー対策

Ⅱ. 学会参加

1. 1988年7月16日、17日 金沢工業大学 図書館情報科学に関する国際ラウンド

テーブル

2. 1998年 8月16日ー 8月21日 第64回IFLA (International Federation of Library Associations and Institutions, 国際図書館連盟) アムステルダム大会

永田 佳之

I. 研究活動

以下の文部省科学研究費による研究活動に研究分担者・代表者として参加：

- ①「学校と地域社会との連携に関する国際比較研究」、②「OECD国際成人リテラシー調査に対応した成人学習調査に関する研究」、③「生涯学習スタッフの養成プログラムの実態に関する国際比較研究」、④「国際教育協力の人材の発掘・確保と人材活用の進め方に関する調査研究」、⑤「オルタナティブな学習施設の実態に関する調査研究：フリースクールを中心に」、⑥「多言語社会における基礎教育に関する学際的研究：南アメリカ諸国との関連において」。また、上記①においてインドネシアで、③においてタイで現地調査を、上記⑥においてペルーとボリビアで現地レビューを実施した。

II. 学会発表

「南アフリカにおける教育改革の現状と課題」日本比較教育学会第34回大会、麗澤大学、1998年7月4日

III. 研究論文・著作

1. 「内発的發展としてのオルターナティブ・スクール：タイの「子ども村学園」を事例に」『国際教育研究紀要』Vol. 3、東和大学国際教育研究所、61-76頁、1997年9月
2. 「南アフリカにおける教育改革の現在：生涯学習社会に向けた新たな試み」『国立教育研究所集録』35号、国立教育研究所、75-90頁、1997年9月
3. 「サブ・サハラ・アフリカ諸国における基礎教育の現状と日本の教育援助の可能性」(分担執筆) 国際協力事業団、1997年12月
4. 「アジア=学びの風景：国際協力が支える成人識字教育」全国公民館連合会『公民館』3月号、5-12頁、1998年3月
5. 「スラムの学校=ジャグリティ：識字教育から共生の教育へ」国際基督教大学学報『教育研究』40号、国際基督教大学教育研究所、67-88頁、1997年9月

6. 「サブ・サハラ・アフリカの基礎教育に対する日本の援助可能性：1990年代の社会変動をふまえて」(分担執筆)『国際協力研究Vol. 14, No. 1』国際協力出版会9-18頁、1998年4月
7. 「フィリピン」『学校外教育施設及び地域社会の教育力の活用：学校5日制の視点から(現地調査報告集)』、国立教育研究所、144-153頁、1998年3月
8. 「南アフリカの教育改革：「和解と虹色の国家建設」に向けた生涯学習政策」『社会教育』48-51頁、1998年6月
9. 「学校自治のススメ：共生の文化への基盤づくり」『教育展望』、教育調査研究所、38-49頁、1998年9月

IV. その他の活動

1. 以下の国際セミナー／会議等の準備・運営・報告書の作成に従事：

「アジア・太平洋地域カリキュラム研究会議」(国立教育研究所)1997年11月10～21日／「アジア・太平洋地域カリキュラム研究編集委員会」(国立教育研究所)1998年3月9～11日／「アジア・太平洋地域高等教育セミナー」(国立教育研究所)1998年6月15～26日(最終報告書：Recent Reform and Perspectives in Higher Education: Report of the Seminar Including a Range of Countries from Asia-Pacific and Europe. NIER. 1998. 166 pages.)
2. 以下の鼎談・講座・講演等を担当：

自由の森学園第13回公開研究会「学校のゆくえPART II「自由教育の光と影」(鼎談)(1997年11月23日、自由の森学園)【「鼎談：「自由教育の光と影」(自由の森学園、1998年)】／自由の森学園自由選択講座「理想の学校」講師および教職員研究会「自由教育と学校自治」講演(1998年5月19日、自由の森学園)／国際協力事業団技術協力専門家養成研修教育コース「教育とエンパワーメント」講師、国際協力事業団国際協力総合研修所、1998年7月17日／「ユネスコ活動を通じた平和教育の可能性」日中教育研究交流会議公開シンポジウム「若者のアジア認識と平和教育の課題」、早稲田大学国際会議場、1998年7月22日

渡部 淳

I. 研究活動

1. 日本における国際理解教育の展開とその教育史的意義
2. 社会科教育における教育方法の国際比較

Ⅲ. 著作 (単行本)

1. 監修『日本を見る目・世界を見る目——国際理解の本』全8巻 (岩崎書店)
1998年4月10日 60~65頁
2. 単著『国際化を考える』(岩崎書店)
1998年4月10日 60頁
3. 共著『調べ学習に役立つ国際理解資料集』(岩崎書店)
1998年4月10日 65頁
4. 分担執筆『教育をどうする』(岩波書店)
1997年10月20日 151~152頁

論文その他

1. 連載「世界の生徒指導」『月刊 生徒指導』(学事出版)
1997年9月号「たった一人の日本人として」 42~45頁
1997年10月号「選ぶ楽しさ」 40~43頁
1997年11月号「シャドーイング・デー」 40~42頁
1997年12月号「中国の受験勉強」 40~43頁
1998年1月号「エルサルバドルの小さな学校」 64~67頁
1998年2月号「韓国の帰国生」 40~43頁
1998年3月号「柔らかい学校文化」 40~43頁
2. 座談会「学校はクロスカルチャーにどう向き合うのか」
(秋山剛、白水繁彦、渡部淳、司会；あわやのぶこ)
季刊『子ども学』(ベネッセ) 1997年秋号 106~115頁
3. 論説「巣立つ若者へ—地球市民として行動を」『日本農業新聞』文化欄
1998年3月23日号
4. インタビュー「国際人から地球市民へと意識変わる」
『現代教育新聞』1998年6月1日号
5. インタビュー「スピーチやディベートを学んで自己表現力をつける」
『月刊 壽』(寿出版社) 1998年9月号 90~94頁

Ⅳ. 講演など

1. 司会 全国私立中学高等学校国際教育研修会 パネル・ディスカッション
「地域と世界をつなぐ国際教育」
1997年9月30日 (広島ガーデンパレス)
2. 講演 高岡南高等学校 国際理解講座

- 「自己表現の楽しさを味わう」
1997年10月27日（富山県立高岡南高等学校）
3. 講演 高岡南高等学校 校内研修会
「授業スタイルと学校文化」
1997年10月27日（富山県立高岡南高等学校）
4. 講師 島根県国際教育研究会
「島根の国際教育を語る会」
1997年11月29日（島根県仁多町立高田小学校）
5. 講演 山梨学院大学 第8回教育公開講座
「国際教育とは—教育実践を通して」
1997年12月6日（山梨学院大学）
6. シンポジスト 異文化間教育学会 第19回大会・シンポジウム
「日本の学校にいかなるコミュニケーション教育が必要か」
1998年5月31日（神田外語大学）
7. 司会 日本国際理解教育学会 第8回研究大会・課題別討論会
「国際理解教育の学習方法をどうするか」
1997年6月14日（上越教育大学）
8. 講演 立命館宇治高等学校・校内研究会
「国際感覚ってなんだろう」
1998年7月25日（琵琶湖リゾートホテル）
9. 基調講演（日本・韓国・米国の教師による）国際理解教育セミナー'98
「今、求められる国際教育とは」
1998年8月1日（国立オリンピック記念青少年総合センター）
10. 司会 国際理解教育セミナー'98 パネル・ディスカッション
「国際理解教育の実践に向けた課題」
1998年8月1日（国立オリンピック記念青少年総合センター）
11. 講演 ガールスカウト・リーダー講習会「ダイバーティング勉強会」
1998年8月15日（ガールスカウト日本連盟東京都支部）
12. 基調講演 日加教育フォーラム'98
「日本の教育—現状と将来」
1998年8月21日（カナダ・アルバータ大学）
13. 司会 日加教育フォーラム'98 分科会
1998年8月21日（カナダ・アルバータ大学）

その他

1. 日本国際理解教育学会 常任理事 (紀要編集委員長)
2. 異文化間教育学会 幹事 (研究担当)
3. 全国私立中学高等学校国際教育研修会 専門委員
4. 東京大学、ルーテル学院大学 非常勤講師

吉 岡 良 昌

I. 研究活動

1. こどもの宗教教育の方法について
2. 信仰に基づく人間形成について

II. 学会発表 (参加)

1. 「こどもの態度教育—信仰・希望・愛の教え方—」
日本キリスト教教育学会第10回大会 (於 日本基督教教団 大森めぐみ教会、
1998年6月6日)
2. “What is a Christian character education ?”
The International Seminar on Religious Education and Values, Session XI, (Trinity
College, South Wales, 9-14 August 1998)
3. 日本キリスト教学会 関東部会 研究発表の司会
(於 東洋英和女学院大学 1998年3月26日)

III. 研究論文

1. 「神学と教育学—キリスト教教育学に向けて—」
【改革派神学第25号】神戸改革派神学校、1997年10月
2. 「キリスト教に基づく人格教育とは何か」
【紀要第30号】明治学院大学キリスト教研究所 1998年2月
3. 書評；梅沢信生著「宗教教育の歴史」
【キリスト教教育論集第6号】日本キリスト教教育学会、1998年5月

IV. その他

1. 日本キリスト教教育学会 会計監査
2. 財団法人 日本キリスト教教育センター 評議員

3. 日本キリスト改革派教会 教師 (規定外奉仕)

雨宮 基博

I. 研究活動

1. 学級集団への集団精神療法の適用

II. 学会発表及び参加

1. 日本教育心理学会 第39回総会 参加
日時：1997年9月24日～25日 場所：広島大学
2. 第15回 日本集団精神療法学会 参加
日時：1998年3月20日 場所：安田生命アカデミア
3. 日本「心の教育」研究開発協会 設立呼びかけ第1回研修大会
シンポジウム「心を育てる学校教育の再生」基調提案
日時：1998年3月21日～22日 場所：日本青年館
4. 国際力動的心理療法研究会 集団精神療法ワークショップ 参加
日時：1998年7月17日～18日 場所：国際基督教大学
5. 国際力動的心理療法研究会 年次大会
ケース研究「学級集団への集団精神療法の適用」発表
日時：1998年7月19日～20日 場所：国際基督教大学
6. 集中的多元統合集団精神療法プログラム「たこ天」参加
日時：1998年8月13日～16日 場所：むさしの村コープパレス

川津 茂生

I. 研究活動

1. 対称性の知覚に関する実験心理学的研究
2. 自己矛盾した概念・言説の理解に関する研究
3. 運動と知覚の関係についての研究

II. 学会発表・参加

1. 日本心理学会第61回大会参加、1997年9月17日～19日、関西学院大学

2. The International Workshop on Advances in Research on Visual Cognition, 参加発表
1997年12月9日～11日、National Institute of Bioscience and Human-Technology,
Tsukuba
3. 日本認知科学会第15回大会参加、1998年6月25日～27日、名古屋大学

Ⅲ. 研究論文

1. Shigeo Kawazu and Kazuhiko Yokosawa (1998). Visual searches for symmetry and asymmetry-effects of stimulus similarity and homogeneity-. In Selection and Integration of Visual Information (Proceedings of the International Workshop on Advances in Research on Visual Cognition), 207-210; Science and Technology Association and National Institute of Bioscience and Human-Technology.

大井 直子

Ⅰ. 研究活動

1. 価値観研究
2. 青年期の親子関係に関する研究

Ⅱ. 学会発表

1. 権藤桂子・大井直子 1998 保育者志望学生の子ども観 日本発達心理学会

Ⅲ. 翻訳書

1. G. H. エルダー 本田時雄 (監訳) 1997 時間と空間の中の子どもたち：社会変動と発達への学際的アプローチ 金子書房 (第2章担当)

苔米地 憲昭

Ⅰ. 研究活動

1. スクールカウンセリングの実践
2. 学生相談における面接方法

II. 学会発表

1. シンポジスト「学生のメンタルヘルスの現状と課題—健康白書をめぐって」第35回全国大学保健管理研究集会1997年10月7日於鹿児島大学
2. シンポジスト「学生相談活動を如何に活性化するか」全国学生相談研究会議1998年1月21日於宮崎医科大学

III. 研究論文、著作

1. 「友人との一体感を求めた女子学生」鳴澤實編著「こころの発達援助」ほんの森出版 62-66頁、1998年3月
2. 「災害時の心理的問題についての教育的活動」国際基督教大学・三鷹市まちづくり公社編「防災とコミュニティ」44-47頁、1998年3月
3. 「自立へのプロセスとして不安・抑うつ症状と取り組んだ男子学生」河合隼雄・藤原勝紀編「学生相談と心理臨床」248-264頁、金子書房、1998年6月
4. 講演録「日本における学生相談の現状と課題」関東学院大学カウンセリングレポート第14号8-13頁、1997年10月
5. 講演録「青年期の発達課題と学生相談の役割」八戸工業高等専門学校学生相談室報第15号11-15頁、1998年3月

IV. その他

1. 講師「アサーション・トレーニング」第35回全国学生相談研修会、国立教育会館、1997年12月9日-11日
2. 講師「上智大学カウンセリングセンター部内研修会」1998年3月18日
3. 講演「スクール・カウンセリングと教育相談」小田原市立城北中学校1998年6月29日
4. 日本学生相談学会第16回大会準備委員長1998年5月15日-17日於国際基督教大学

松田 憲

I. 研究活動

1. 留学前後における異文化理解及び曖昧耐性の変化に関する研究
2. テレコミュニケーション技術を用いた国際遠隔教育に関する研究
3. 第二言語読解過程研究

II. 学会発表

1. シンポジウム「第二言語教育研究における方法論」【“Think-aloud”を用いたプロトコル・データ分析】第36回大学英語教育学会（JACET）全国大会（1997年9月15日於早稲田大学）
2. “Using Role Play in the Beginning-Level Language Classroom” 第23回全国語学教育学会（JALT）年次国際大会（1997年10月10日於アクト・シティー浜松）

III. 研究論文

1. 「国際遠隔教育における教授技法—効果的なプレゼンテーションの工夫—」【亜細亜大学情報科学研究所】第4巻第1号, pp.67-74, 1997年10月
2. “Application for Using Authentic Materials in the EFL Classroom” CELE Journal No. 6, pp.41-44, 1998年3月15日
3. “Results of the 1996/97 I-TOEFL Tests” CELE Journal No. 6, pp.61-70, 1998年3月15日
4. “International Distance Education : A Pilot Study at Asia University” 国際基督教大学学報 I-A 【教育研究】第40号, pp.283-302, 1998年3月31日
5. 「第二言語読解過程研究における認知心理学的視点—発話プロトコルのデータ収集・分析における問題と改善—」【亜細亜大学教養部紀要】第57号, pp.103-114, 1998年6月30日

<研究員 II >

上 別 府 隆 男

I. 研究活動

米国メリーランド大学カレッジパーク校教育大学院Ph. D. 候補として博士論文作成中。タイトル“発展途上国に対する日本の教育援助政策の展開（1960-1997）—国内政治力学の役割”

II. 学会発表

1. 上別府隆男 “Issues around Analysis of Japanese Policymaking in Education Aid” 第42回北米比較・国際教育学会（1998年3月、ニューヨーク州バッファロー）

2. 上別府隆男・馬場将光 “Quality Assurance of Students in Japanese Universities in the Era of Mass Higher Education” 第42回北米比較・国際教育学会 (1998年3月、ニューヨーク州バッファロー)
3. 上別府隆男 “The Politics of Japanese Aid : The Case of Education Aid” 第10回Ph. D. 研究会 (1998年7月東京・国際文化会館)

Ⅲ. 研究論文、著作、出版

1. 上別府隆男 “The Impacts of Asian Americans on U. S. Higher Education : Asian American Studies Movement” 国際基督教大学教育研究40号 (1998年3月)
2. 上別府隆男・馬場将光 “Quality Assurance of Students in Japanese Universities in the Era of Mass Higher Education” 信州大学教育学部紀要95号 (1998年9月)

Ⅳ. その他

1. メリーランド大学教育大学院国際教育政策センター・コンサルタント (1997年度日本・文部省若手教員海外派遣日米国民交流プログラム・バージニアグループ異文化コーディネーター)
2. Pacific Basin Partners, Inc. 国際開発コンサルタント [ワシントン]

小島 文英

Ⅰ. 研究活動

開発のためのカリキュラム

Ⅲ. 研究論文、著作、出版

小島文英「東京首都圏の社会変容と社会教育の役割の変化についての一考察」
『教育研究』(国際基督教大学) 40号、1998年3月、89-119。

Ⅳ. その他

1. 東京都調布市社会教育囑託専門員 (1997年4月-1997年11月)
2. 国際協力事業団技術協力専門家 ミャンマー 基礎教育カリキュラム (1997年12月-1998年5月)

前田 洋士

I. 研究活動

1. 構造的知識の個人差の実験的研究
2. コネクショニストアプローチによる認知発達モデリング
3. マルチメディア環境における個人差を考慮した効果的な学習の再考

II. 学会発表

日本生涯教育学会第19回大会にて発表

マルチメディア・大学・生涯学習研究会 II DLA / DAL の研究
—— ミネソタ・ウイスコンシンの視察事例を中心に

III. 研究論文、著作、出版

1. 日本生涯教育学会年次報告研究論集（第19号）掲載
マルチメディア・大学・生涯学習研究会 II DLA / DAL の研究
—— ミネソタ・ウイスコンシンの視察事例を中心に
2. グループ・インタビューの技法（翻訳） 慶応通信
Focus Group Interviews in Education and Psychology SAGE, 1995.

IV. その他

1998年6月：APASSC (American Psychological Association Science Student Council)
にてMember-at-largeに選出される。任期は、本学博士課程終了時まで。

1998年8月：英国オックスフォード大学心理学部にて、Dr. Kim Plunkettより
人間の認知発達を説明するためのコネクショニズム理論およびコネクショニ
スト・モデリングを習得。

マタノ 石田 純子

I. 研究活動

海外在住経験のある者及び留学生における友人関係とサポートについて
環境移行に伴う適応の過程について

マルチカルチュラルカウンセリングの方法と有効性について

II. 学会発表

Yeh, C. J., Yoshino, Y., Imoto, S., Kobori, A., & Matano, J. I. (1998, August). Japanese and Japanese American Psychological Symptoms, Coping Styles, and Mental Health Utilization Practices. Presented at the Asian American Psychological Association Convention, San Francisco, CA.

齊藤 哲

I. 研究活動

乳児期における情動、対人関係の発達
 発達初期における育児者の言語的働きかけの研究
 前言語期の乳児の音声認識に関する研究

II. 学会発表

1998年3月 発達心理学会 ポスター発表 (於 日本女子大学)

杉山 恵理子

I. 研究活動

1. 精神分裂病者に対する集団精神療法の技法、治療要因、効果についての研究
2. 個人精神療法における終結についての研究

II. 学会発表

杉山恵理子

心理療法における卒業：「自分の人生を考え」た中年女性との終結の過程
 日本心理臨床学会第16回大会 於：東北大学 平成9年9月21日

III. 研究論文

杉山恵理子、小谷英文、小沢良子

精神分裂病の集団心理療法 (集団精神療法)：初期過程の治療要因と技法。心理臨

床学研究 15 (6), 585-597, 1998.

IV. その他

杉山恵理子

フレッシュマン生活意識調査の集計結果

国際基督教大学カウンセリングセンター活動報告, 9, 12-21, 1997 平成10年
1月

山王丸 浩子

I. 研究活動

ハイパーメディア、マルチメディア教材の開発と利用

II. 学会発表

1. 「ハイパーメディアの活用におけるナビゲーションの研究 —リンク先明示の効果について—」 教育工学関連学協会連合第5回全国大会 (於電気通信大学) 1997年9月11-13日 (中野照海教授と共同)

III. 研究論文等

1. 「ハイパーメディアの活用におけるナビゲーションの研究 —リンク先明示の効果について—」 『教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集』(p. 7-8.) 1997年9月 (中野照海教授と共同)
2. 「マルチメディアの教育利用におけるナビゲーション・ツール研究の展開」 『国際基督教大学学報 I-A 教育研究第40号』(p. 167-194.) 1998年3月
3. 「インターネットによる英語学習 —教材の開発と活用—」 『第2章 2. 活用と評価の実際』(p. 26-30.) (三河内彰子 (国際基督教大学) と共著)、「第5章 研究開発の現状 (内外関連研究論文の要約)」(14編の英文文献要約を担当) 財団法人 日本視聴覚教育協会 1998年3月

IV. その他

1. 平成9年度文部省研究委嘱事業「インターネットを活用した英語学習システム研究開発」評価委員 (インターネット教材を用いた実際の実施・評価を担当) (1997年10月-1998年3月)

〈98年度博士号取得者〉

篠原 和子

I. 研究活動

1. メタファー理論：日本語と英語の時間のメタファーの比較研究、特に時間を移動の概念で表すメタファーにおける「空間的移動」と「時間の経過」の概念写像の制約の分析。
2. メタファー理論の応用：英語教育法・辞書学等への応用について研究中。

II. 学会発表

1. “Conceptual Mappings from Spatial Motion to Time : Analysis of English and Japanese” International Workshop of Computation for Metaphors, Analogy and Agents, 会津大学, 1998. 4. 6-10
2. 「時間のメタファーにおける移動様態動詞の制約」日本言語学会第116回大会個人研究発表, 慶応大学, 1998. 6. 20-21
3. “Motion Verbs in Time Metaphors” 認知言語学フォーラム (ワークショップ「移動動詞の意味的拡張」), 東京大学, 1998. 7. 11-12

III. 研究論文

1. “Conceptual Mappings from Spatial Motion to Time : Analysis of English and Japanese” In Chystopher L. Nehaniv ed., Working Papers in Computation for Metaphors, Analogy and Agents, The University of Aizu, pp. 84-89
2. “Conceptual Mappings from Spatial Motion to Time : Analysis of English and Japanese” Proceedings of The International Workshop of Computation for Metaphors, Analogy and Agents, Springer Verlag (in press)
3. 博士論文
“Epistemology of Space and Time:Analysis of Conceptual Metaphors in English and Japanese.”

1997年12月 国際基督教大学教育学研究科提出

IV. その他

1997年度 東京言語研究所「理論言語学賞」受賞

湯 浅 文 子

I. 研究活動

コミュニカティブ言語教育における文法教授法についての研究

II. 論文

博士論文

“The Role of Pedagogic Grammar in Communicative Language Teaching: A Comparative Study of Two Types of Form-focused Instruction”

1998年4月 国際基督教大学教育学研究科提出

III. 研究室活動報告

〈教育哲学研究室〉

1. 人の動き

1998年3月退任 園田麻子

高瀬香織

1997年9月着任 高屋景一

1998年4月着任 中須正

服部惣一

2. 研究活動

発表会：修士論文・卒業論文発表会 1998年2月14日（土）

修士論文中間発表会 1997年12月13日（土）

1998年5月30日（土）

教育セミナー：1998年8月3日（月），4日（火）

3. 博士後期課程副手の研究活動

高屋景一 教育思想史学会会員 1997年10月17日 大会参加 於 京都大学
 教育哲学会会員 1997年10月18・19日 大会参加 於 京都女子大学
 日本デューイ学会会員

The 54th Annual Meeting of the Philosophy of Education Society 参加 at
 Hyatt Regency, Cambridge, Massachusetts, March 27 - 30, 1998.

<心理学研究室>

1. 人の動き

(1) 学内人事

1998. 3. 31

岡田恵美子、飯島久美子、吉野展世、小暮雅子、非常勤副手を退任。

1998. 4. 1

栗山容子教授、研究室主任に就任。

山口麻矢、前田洋士、宮崎美里、土居香央理、伊波夕子、非常勤副手に就任。

大井直子、黒岩憲洋、秋山朋子、相山彩子、前年度に引き続き非常勤副手に就任。

(2) 非常勤講師

1997 秋学期 池田 央 (立教大学教授)

「GEPS453 教育心理学演習Ⅱ・測定と評価の諸問題」

1997 冬学期 鳥居 修晃 (聖心女子大学教授)

「EPS352 知覚心理学」

鹿島 晴雄 (慶応義塾大学助教授)

「GEPS580 教育心理学研究Ⅷ・教育心理学特論A」

1998 春学期 苔米地 憲昭 (ICUカウンセリングセンター主任)

「EPS320 思春期・青年期心理学」

2. 研究活動

(1) 心理学講演会

1997. 9. 29 心理学フォーラム

「青年期における宗教改心経験を巡って」

Prof. Thomas Hastings

(Tokyo Union Theological Seminary)

於 本館116号室

1997. 10. 28 心理学フォーラム

「心の理解に向けて」

～マウス遺伝学を用いた心の機能解析～

田辺宏樹氏

(Biomedical Research Center, Osaka University Medical School)

於 本館205号室

1998. 1. 20 心理学フォーラム

「甘えという言葉の使い方」

～不適切な行動が相手に許容されることの期待～

山口勸教授

於 本館251号室

1998. 5. 26 心理学フォーラム

“The Anthropology of Mental Illness in the United States, India, and Japan.”

Associate Prof. Charles W. Nuckolls

於 本館170号室

1998. 6. 4 心理学フォーラム

“Drug Use and HIV-risk Behaviors in Social and Cultural Contexts among Asian Drug Users in San Francisco.”

Tooru Nemoto Ph. D.

(Assistant Research Psychologist, University of California, San Francisco)

於 本館215号室

(2) 論文発表会

1998. 1. 27 修士論文発表会 (発表者 飯島久美子、小暮雅子、中川剛太、
武野顕吾、吉野展世)

1998. 2. 10 卒業論文発表会 (発表者 17名)

1998. 6. 2 6月卒業生卒業論文発表会 (発表者 4名)

3. その他

1998. 2. 17 非常勤講師慰労会 於 吉祥寺ピストロ・アヴィニヨン

〈視聴覚教育研究室〉

1. 人の動き

1997年4月：渡辺功、石川勝博、三河内彰子、山王丸浩子、日野奈美が昨年引き続き副手に就任した。

また、次の副手が辞任した。

1997年3月辞任：金田憲治

1998年7月辞任：山王丸浩子

1998年8月辞任：三河内彰子

2. 研究活動

(1) 日本視聴覚・放送教育学会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚・放送教育学会第4回大会が、教育工学関連学協会連合第5回全国大会と合同で、電気通信大学において1997年9月11日から13日にかけて行われた。シンポジウム並びに課題研究は次のようなテーマで行われた。

シンポジウムⅠ：「21世紀に向かったの創造性開発」

シンポジウムⅡ：「情報教育—独立教科としての必要性とその内容—」

課題研究：「授業改善のための放送利用」

：「認知過程における映像の役割」ほか

(2) 共同研究

中野照海教授、三河内彰子副手、山王丸浩子副手は、篠原文陽児氏（東京学芸大学）、青木繁氏（NHK出版マルチメディア推進室、修士：1979年度修了）とともに、文部省委嘱研究「インターネットを活用した英語学習システム研究開発」に参加して、教材の開発と利用実験に当たり、その報告書『インターネットによる英語学習—教材の開発と活用』（日本視聴覚教育協会、1998年3月）の分担執筆を行った。なお、北條礼子（上越教育大学、修士：1978年度修了）、金城尚美（琉球大学、修士：1992年度修了）、川本佳代（広島市立大学、博士：1994年度満期退学）、鈴木美加（東京外国語大学、修士：1989年度修了）は、「文献調査協力者」としてこのプロジェクトに加わった。

渡辺 功 副手

研究活動

1. テレビ暴力番組視聴と子どもの非社会的行動に関する研究
2. マス・メディア接触における空想志向と現実志向によるアンビバレンスに関する研究
3. メディア利用による子どもの仲間集団形成過程および、対人関係に関する研究

著作

- ・「新しい通信メディア利用による子どもの対人関係に関する研究」『電気通信普及財団研究調査報告書』No.12, 1998年1月, 201-215頁 (阿久津喜弘教授、佐々木輝美 (獨協大学)、和田正人、海後宗男 (国際武道大学)、石川勝博と共著)

石川 勝博 副手

研究活動

1. マス・メディアの「利用と満足」に関する研究
2. メディア関連欲求に関する研究
3. メディア利用による子どもの仲間集団形成過程および、対人関係に関する研究

著作

- ・「新しい通信メディア利用による子どもの対人関係に関する研究」『電気通信普及財団研究調査報告書』No.12, 1998年1月, 201-215頁 (阿久津喜弘教授、佐々木輝美 (獨協大学)、和田正人、海後宗男 (国際武道大学)、渡辺功と共著)

〈英語教育研究室 English Teaching Department〉

1. 人の動き

- ・本研究室の学生のほぼ全員が語学科の副手に就任している。
- ・LoCastro先生が1998年6月でご退任された。
- ・1998年3月に10名（博士前期課程9名、後期課程1名）が修了した。
- ・1998年4月に3名が入学（内、研究生が2名）した。
- ・1998年6月に3名（博士前期課程2名、後期課程1名）が修了した。

2. 研究活動

- 1997.12 修士論文中間発表会（発表者 小川裕巳、石渡華奈、川端明美、
大橋裕子、大川多美子、大野真名美、脇田直子）
博士論文中間発表会（発表者 篠原和子）
1998. 2 英語教育レクチャー（主催：英語教育院生室）
「フォニックスを使った英語指導」
講師 武蔵高等学校・中学校 手島 良教諭
1998. 4 6月修了修士論文中間発表会（発表者 宇田川洋子）
1998. 4 「ICU英語研究 1998 Vol. 7」発行
1998. 5.24 英語教育レクチャー（主催：英語教育院生室）
「英語科教員を囲む会」
講師 川端明美、大橋裕子、脇田直子（本研究室98年度修了生、中・高英語科教員）学部生35名が出席した。
1998. 7. 4-5 ICU言語研究会ワークショップ（主催：英語教育院生室）
場所：八王子大学セミナーハウス
- ・研究発表
 - ・修士論文発表
 - ・吉田智行先生（ICU）、スラッシャー先生（ICU）によるレクチャー

IV. 大学院教育学研究科修士論文

〈教育哲学〉

1998年3月卒業

倉田 知幸

子供達はいかにして習得することなく学校に留まるのか：
サンパウロ州立小学校の事例研究

How Children Remain in School without Achieving :
A Case Study of State Primary Schools in São Paulo

高瀬 香織

戦後日本における私立中学校の役割変化

Post-war Transformation of the Role of Private Junior High School

園田 麻子

デューイの芸術論についての一考察

—リズムの観点を中心に—

A Study on Dewey's Theory of Art :
with Emphasis on his Concept of Rhythm

〈教育心理学〉

1998年3月卒業

飯島 久美子

Chum-group 体験が青年期同一性形成に果たす役割

The Role of Chum-group Experience in Forming Identity in
Adolescence

小暮 雅子

思春期女子における仲間集団発達段階

—仲間集団への同一視と性的同一性という観点から—

A Study of Developmental Stage of Peer-group in Adolescent Girls
- From the View of Identification to Peer-group and Sexual Identity -

中川 剛太

ダウン症者に対する短期力動的集団精神療法の適用可能性

—その理論と技法による—事例の治療プロセス—

Applicability of Short-term Psychodynamic Group Psychotherapy
for Down's Syndrome Patients : The Treatment Process of a
Clinical Case Based on the Theory and Technique

武野 顕吾

野球チームのチーム力要因と権威・仲間関係の集団力学

A Study of Functional Factors of Baseball Teams and their Group
Dynamics Focusing on Relationships of Team Members to Authority
and Compeer Relationships.

1998年6月卒業

吉野 展世

過剰適応に関する一考察—攻撃性の表出を中心に—

Study on the Excessive Adaptation : With Special Emphasis on the
Expression of Aggression

〈視聴覚教育法〉

1998年3月卒業

金田 憲治

対戦型格闘テレビゲームのインタラクティブ性による攻撃性の
減少に関する実験的研究

An Experimental Study on the Reduction of Aggressiveness by the
Interactivity of a Fighting-Action Video Game.

横田 直文

公序良俗に反するマス・メディア広告に関する社会統制の分析
An Analysis of the Social Control of Morally Offensive Advertising
in Mass Media

〈英語教育法〉

1998年3月卒業

黒澤 東

日本語の実現されるが具現されない主語

—システム機能主義的観点による省略される主語についての考
察—

The Non-Instantiated but Realized 'Subject' in Japanese

-A Study of the Elliptical 'Subject' from a Systemic-Functional Perspective-

小川 裕己

英語を第二言語とする学習者に対するライティング指導におけるオーラルコミュニケーションの役割：ケーススタディー
A Role of Oral Communication in the ESL Writing Classroom : A Case Study

星野 直子

第二言語としての英語学習におけるイントネーションの研究：リスニングテープ文体の分析
A Study of Intonation in the Learning of English as a Second Language : A Stylistic Analysis of Listening Tapes

石渡 華奈

外国語における単語認知の研究：
英語を非母語とする学習者の英単語視覚情報処理に活字書体を与える影響の心理学的・電気生理学的評価
A Study of the FL Word Recognition :
Psychological and Electrophysiological Assessment of the Effects of Typeface on Visual Processing of English Words in EFL Readers.

川端 明美

日本の中等教育における「言語意識」と英語教育
"Language Awareness" and English Teaching in Secondary Education in Japan.

大橋 裕子

現代における外来語に対する中・高生の意識の一研究：中・高生は外来語をどのようにとらえているか
A Study of Contemporary Junior and Senior High School Students' Awareness of "In Vogue" Loanwords.

大川 多美子

バイリンガル教育機関におけるキャンパス言葉と言語借用
—国際基督教大学における考察—
Campus Slang and Language Borrowing in a Bilingual Educational Institution.

- 大野 真名美 目標志向性と自己効力
Dweckのモデルについての一研究
"Achievement Goal Orientation" and "Self-Efficacy": An
Investigation of Dweck's Model.
- 脇田 直子 リーディングによる語彙の自然習得: EFL読者を対象とした一
研究
Uninstructed Vocabulary Acquisition: A Study of EFL Readers.
- 1998年6月卒業
宿谷 仁美 摂食障害患者における"自己"と"主体"の比喩モデルを用いた分
析
Metaphorical Models of the "Self" and "Subject" in Eating Disorder
Clients.
- 宇田川 洋子 第二言語学習における普遍文法: 日本人英語学習者の英語再帰
代名詞に関する中間言語の研究
Accessibility of Universal Grammar in Adult Second Language
Learning: Empirical research on English reflexives in the
interlanguage of Japanese learners of English.

V. 大学院教育学研究科博士論文

〈英語教育法〉

- 1998年3月卒業
篠原 和子 時間と空間の認識論: 日英語の概念的隠喩の分析
Epistemology of Space and Time: Analysis of Conceptual Metaphors
in English and Japanese
- 1998年6月卒業
湯浅 文子 コミュニケーション重視の外国語教授法における文法指導の役

割—2種類のフォームフォーカス教授法を比較して

The Role of Pedagogic Grammar in Communicative Language Teaching : A Comparative Study of Two Types of Form-Focused Instruction

VI. ICU教育研究会・活動報告

1. 本研究会の目的と性格

ICUの卒業生は初等から大学までの教育実践者、研究者を多数擁している。それはキリスト教主義その他の私学、国、公立の教育機関に属しており、共働によってわが国の教育の諸問題について情報を交換し、検討、研究するのに極めて好ましい条件にある。

教育研究会の主要な活動は夏期合宿研究会（教育セミナー）であるが、その他機会をとらえて、（1）会員の教育実践者としての資質を高めること、（2）母校ICUの建学の理想を絶えず想起し、卒業生としてフィードバックすること、（3）ICUにおける教師教育（養成）に協力および貢献すること、を目的とした事業を展開して行く。

2. 教育学科の後援によるBenjamin Duke教授退職記念講演の開催

日 程：6月13日 14:00～17:00

会 場：大学本部棟206号室

出席者：40名

本学の創立期に着任されたDuke教授はこの間日本の戦後の教育史を見守られたということになる。新憲法のもとに制定された教育基本法と戦後の教育の民主主義的な改変を振り返り、今また進みつつある新たな改変の意味をわれわれに問いかける講演であった。

教授によるスライドは大学と、それを創りあげたひとたちの歴史の物語であった。

3. 第21回 ICU教育セミナー（通算第26回）

日 程：8月3日、4日

会 場：ホテル、フロラシオン青山（公立学校共済組合宿泊所）

参加者：34名

[第1日]

全体会Ⅰ

「私の訴えたいこと」自己紹介をかねて（全参加者）司会 荒井偉作（自由学園）

全体会Ⅱ

基調報告：「大きくかわる教員養成」 松浦良充 明治学院大学

司会 吉田道郎（都立神代高）

[第2日]

全体会Ⅲ

講演：「憲法と教育」—憲法と紀要行く基本法50年の節目に 奥平康弘 元

ICU教授

司会 山口和孝（埼玉大学）

分科会

①生徒指導—子供達の荒れ・子供理解 基礎報告と司会

高橋昌子（都立町田工高）

②教師としての生きがい・教師としての悩み（同）池辺 理

③入試とカリキュラム

（同）山口和孝（埼玉大学）

〈報告責任者：吉田道郎〉

VII. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1998年度には39名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 39名

男 子 10名

女 子 29名

2) 実習日程及び実習校

5月6日～5月19日 滋賀大学教育学部附属中学校（滋賀）

5月18日～5月30日 宮城学院中学校・高等学校（宮城）

5月18日～6月6日 茗溪学園中学校・高等学校（茨城）

5月21日～6月5日 敬和学園高等学校（新潟）

- 5月25日～6月6日 筑波大学附属盲学校（東京）、富山県立富山中部高等学校
- 5月27日～6月7日 福岡教育大学附属小倉中学校（福岡）
- 5月28日～6月10日 基督教独立学園高等学校（山形）
- 6月1日～6月12日 三鷹市立第一中学校、三鷹市立第六中学校、共愛学園高等学校（群馬）、松本深志高等学校（長野）、恵泉女学園高等学校（東京）、東村山市立東村山第二中学校
- 6月1日～6月13日 国際基督教大学高等学校（東京）、成蹊中学校（東京）、関西大学第一高等学校（大阪）、岡山県立岡山城東高等学校、北浦三育中学校（茨城）
- 6月3日～6月16日 プール学院高等学校（大阪）
- 6月8日～6月19日 聖心女子学院（東京）
- 6月8日～6月20日 和光中学校（東京）、目黒区立東山中学校、小平市立小平第四中学校、岐阜県立関高等学校、明治学院東村山高等学校（東京）
- 6月11日～6月24日 星陵高等学校（石川）、東京都立日比谷高等学校
- 6月11日～6月26日 横浜共立学園中学校・高等学校
- 9月1日～9月14日 京都女子高等学校
- 9月28日～10月15日 早稲田大学高等学院（東京）
- 10月5日～10月17日 日高市立高麗中学校（埼玉）
- 10月12日～10月24日 自由学園高等科（東京）

3) 実習参加学生学科別内訳

学 科	性 別		計
	男	女	
人 文 学 科	0	3	3
社 会 学 科	2	2	4
理 学 科	4	2	6
語 学 科	3	7	10
教 育 学 科	1	9	10
国 際 関 係 学 科	0	4	4
教 育 学 研 究 科	0	1	1
行 政 学 研 究 科	0	0	0
理 学 研 究 科	0	0	0
比 較 文 化 研 究 科	0	0	0
科 目 等 履 修 生	0	1	1
合 計	10	29	39

4) 実習生教科別内訳

学 科	性 別		計
	男	女	
社 会	2	5	6
理 科	3	1	4
数 学	1	0	1
英 語	4	23	27
宗 教	0	0	0
合 計	10	29	39

2. 教員免許状取得状況報告

1998年3月卒業生532名(学部485名、大学院47名)の内、一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教員免許取得学生数 (科目等履修生は除く)

学科	種別	取得者実数	種別	
			中一種	高一種
人文科学科		5	4	4
社会科学科		12	11	12
理学科		5	2	5
語学科		17	16	17
教育学科		6	6	6
国際関係学科		3	3	2
合 計		48	42	46

2) 教養学部教科別教員免許状取得学生数 (科目等履修生は除く)

学科	教科種別	社会	地理・歴史	公民	数学		理科		英語		宗教	
		中一	高一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人文科学科		2	2						2	2		
社会科学科		9	3	7					2	2		
理学科					2	2		3				
語学科									16	17		
教育学科		2	2						4	4		
国際関係学科		2	1						1	1		

3) 大学院教員免許状取得者数

研究科 専攻科	種別	中一	高一	中専	高専
		教育学研究科	教育哲学専攻		2
	教育心理学専攻				
	英語教育専攻			7	7
	視聴覚教育専攻			1	1
行政学研究科	行政学専攻				
比較文化研究科	比較文化専攻				
理学研究科	基礎理学専攻				